

野辺地町まち・ひと・しごと創生総合戦略 効果検証(KPI) 一覧表(令和元年度事業実施分一基本目標順)

基本目標名	施策名	具体的な施策	R元年度 決算額	重要業績評価指標(KPI)			担当課における内部評価				外部有識者からの評価	
				指標	目標値(H32年)	実績値(R元年)	効果検証	理由	今後の方針	理由	事業の評価	コメント等
① 郷土の産業・労働分野を創る	①-1 「みちのく丸」を拠点としたバイフロント計画	のへじ常夜燈朝市の開催(水産業・農業・商業・観光・民間の連携)	0千円	朝市の売上高【野辺地町調べ】	年間900万円	評価対象外事業※実施の目的がたっていないため						
		物販・交流施設等の整備・促進	11,742千円	物販・交流施設等来場者数【野辺地町調べ】	年間3万人	43,886人	一定の進捗がある	来場者数が目標を上回ったことから。	更に発展させる	来場者は目標値を上回っているが、レジカウンは目標に達していないためリピーター客に視点を当てた取り組み及び自立した運営の確立の検討。	KPI達成に有効であった(11人) KPI達成に有効であったとは言えない(2人) その他(0人)	●運営面での課題が多くみられるため、経営面での対策を行った方がよいと思う。 ●野辺地町に昔から残っている食材や菓子・食品が、時代とともに受け継がれていく工夫が求められると思う。
		水産加工品の開発・販売		開発する加工品の種類【野辺地町調べ(町漁協との連携)】	5年間で累計3件	評価対象外事業※実施の目的がたっていないため						
		国内外へ向けた「みちのく丸」利活用の推進	234千円	ロケ地活用件数【野辺地町調べ】	5年間で累計5件	0件(累計3件)	一定の進捗がある	R元年の実績は無かったものの、雑誌等に取り上げられたほか、みちのく丸についての質問を受けるなど周知効果ができている。	事業の継続	特産品や食、日本文化遺産関係と組み合わせるなど、複合的なPRに努めロケ地活用を目指す。	KPI達成に有効であった(4人) KPI達成に有効であったとは言えない(8人) その他(1人)	●町として既に取組んでいると思うため、内容をより充実させた形で事業展開してほしい。 ●テレビ特別番組や新聞・雑誌以外に、今はITが進んでいるので、インターネットを活用したPRが必要だと思う。 ●実績なしのため、テレビ、雑誌等の取り上げだけでなく、こちらからの情報発信などのPRに力点を置いた方がよい。 ●みちのく丸予算について、実費収入はあるのか。
		国内外へ向けた「みちのく丸」利活用の推進	5,050千円	寄附件数【野辺地町調べ】	5年間で累計30件	3件(累計26件)	進捗している	5年間で累計30件に向けて着実に件数が増えていることから。	事業の継続	「みちのく丸」の維持保全に努めながら、周知PR等これまで同様の事業を継続することでKPI達成が見込まれる。	KPI達成に有効であった(9人) KPI達成に有効であったとは言えない(3人) その他(1人)	●町を栄えさせてくれた「みちのく丸」にスポットが当たれば良いと思う。「みちのく丸」物語とが出来たら良いと思う。私たちの手で何が出来るか。(映画製作等)
	①-2 農林水産業の活性化	後継者及び担い手の育成・確保		新規就業者数(農業・水産業)【野辺地町調べ(農協・漁協と連携)】	5年間で累計11人	10件	一定の進捗がある	新規就業者を4名確保することができたが、担い手不足解消のためにさらなる掘起しに努める。	その他	積極的なトップセールス等を通じて、引き続き、広報活動を実施する。農業者の高齢化に伴いリタイアする農業者が増加傾向にあると見込まれるので、担い手の確保と経営安定のために必要と思われる。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(1人)	●体験型を進めて、学生等を呼んで一緒に活動の場を作れたら良いと思う。 ●移住者がより住みやすいような支援が必要。
		農地規模拡大交付金の創設	786千円	規模拡大実施件数【野辺地町調べ】	5年間で累計5件	17件	一定の進捗がある	目標値を達成しているが、新たな担い手への農地集積を行うために引き続き周知を図る。	その他	新たな農地及び出し手の確保と、遊休農地の改善を図った規模拡大とするなど事業の見直しが必要。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(1人)	●平成28年度以降実績がない。 ●希望者が増加するように工夫とアイデアが必要だと思う。
		農業経営の法人化の推進	786千円	農業法人件数【野辺地町調べ】	5年間で累計3件	2件	一定の進捗がある	2法人が認定農業者として営農していることから進捗があると判断される。	その他	法人化にむけ必要に応じて説明など行っていく。	KPI達成に有効であった(10人) KPI達成に有効であったとは言えない(2人) その他(1人)	●平成28年度以降実績がない。 ●希望者が増加するように工夫とアイデアが必要だと思う。 ●新規で法人化した場合は、期間限定で税金を優遇し、経営を早期安定化させる支援を行う。
	①-3 味・特産品を生かした新たな雇用創出	野辺地の美味しいを探る	0千円	野辺地ならではの料理が常時食べられる飲食店の件数【野辺地町調べ】	5年間で累計10店舗	0件	進捗していない	KPI達成に向けた事業の取り組みにいたっていない。	事業内容の見直し(改善)	KPI達成は困難である。指標を、郷土料理を「常時食べられる」から「限定等」に見直すなどで検討するほか、郷土料理を伝え残すも取り入れた事業内容として考えたい。	KPI達成に有効であった(0人) KPI達成に有効であったとは言えない(9人) その他(4人)	●もう一度取組内容を考え、郷土の味を残してほしい。 ●野辺地外へのPR活動が不足。 ●今後、野辺地町でしか食べられない料理を食べられる場所が不可欠だと思う。 ●取り組みを行っていないため、今後はコロナの影響もあり、飲食店の活性化を期待したい。 ●今後の方針の理由にあるように、事業の修正が望ましい。
	①-4 野辺地工業団地への企業誘致推進	野辺地工業団地への企業誘致の活動	184千円	誘致企業数【野辺地町調べ】	5年間で累計2社	0社	あまり進捗していない	企業からの情報は得ているものの、誘致計画の策定までいたっていない。	事業の継続	引き続き協議を行っている企業への誘致活動を進めるほか、青森県東京事務所とも連携し、旧農工団地への誘致も含め取り組んでいく必要がある。	KPI達成に有効であった(1人) KPI達成に有効であったとは言えない(11人) その他(1人)	●少しずつでも良いので継続して頑張ってください。 ●生きていくために必要な、人を助けられるような企業、例えば職業訓練所的な大学等が出来たら良いと思う。 ●引き続き、誘致活動を進めていただきたい。 ●目標値達成に向けて、色々な角度から模索してほしい。
①-5 産業・雇用創出対策の強化	事業者(法人、個人等)への支援	2,201千円	新たな起業件数【野辺地町調べ(町商工会との連携)】	5年間で累計35件	4件	一定の進捗がある	起業者があつたため。	事業の継続	創業起業を考えている方への後押し並びに町の活性化に繋がる事業として、引き続き補助金事業及び相談事業を継続したい。	KPI達成に有効であった(8人) KPI達成に有効であったとは言えない(4人) その他(1人)	●農業法人でのコメント同様に、早期経営安定化のための支援が必要。	

基本目標名	施策名	具体的な施策	R元年度 決算額	重要業績評価指標(KPI)			担当課における内部評価				外部有識者からの評価		
				指標	目標値(H32年)	実績値(R元年)	効果検証	理由	今後の方針	理由	事業の評価	コメント等	
② 郷土の住みやすさを実現する 生活環境・生活基盤分野	②-1 周辺市町村 ベッドタウン化 推進計画 「転入推進 対策」	転入者に対する定住促進の強化		補助金を活用した転入者数 【野辺地町調べ】	年間3世帯5年間で累計50人	0人	進捗していない	業務量に対し、十分な人員が配置されておらず、事業実施に至っていないため。	事業内容の見直し(改善)	根拠となる規定及び財政的裏付けが必要であるため。	KPI達成に有効であった(0人) KPI達成に有効であったとは言えない(11人) その他(2人)	●評価対象外事業にしてはどうか。	
		空き家・空き店舗・バンク制度	0千円	バンク制度利用件数 【野辺地町調べ】	5年間で累計15件								
		防災に優しい町への強化	117千円	自主防災組織件数 【野辺地町調べ】	5年間で累計10団体	8団体	一定の進捗がある	1団体が結成となったが1団体が解散し増減がなかった。	事業の継続	地域の防災に不可欠なため、引き続き新たな結成団体を模索、活動費や資機材整備費の支援を実施する。	KPI達成に有効であった(9人) KPI達成に有効であったとは言えない(3人) その他(1人)	●防災の学びの場の情報を発信し、防災に詳しい人口を増やしていく工夫が必要だと思ふ。 ●人材が少ない。	
	②-2 都市と農山漁村交流の推進	体験移住(おためし居住)への支援		体験者数 【野辺地町調べ】	5年間で累計20人	1人(累計3人)	あまり進捗していない	1名利用者がいたが、利用者数が少なく周知不足である。	事業内容の見直し(改善)	根拠となる規定及び財政的裏付けが必要であるため。	KPI達成に有効であった(0人) KPI達成に有効であったとは言えない(12人) その他(1人)	●体験型プログラムを組み入れる等のさらなる工夫が必要。 ●住みたくするような、わくわくするようなお店、人材等、仲間づくりが出来たら、来る人が増えるような気がする。 ●利用者が増えるような事業の見直しが必要。	
	②-3 町営等の住宅整備 「転出抑制 対策」	子育て支援等住宅整備の推進	0千円	子育て支援等住宅入居者数 【野辺地町調べ】	年間5世帯								
	②-4 災害避難地の提供	移住の促進を目的とした首都圏向け災害避難地の提供		体験者数 【野辺地町調べ】	H29～31年の3年間で累計100人 ※災害時の場合を想定した指標は設定しない	0人	進捗していない	業務量に対し、十分な人員配置がされておらず、事業実施に至っていないため	事業内容の見直し(改善)	仕様を早急に定め、予算要求する。	KPI達成に有効であった(0人) KPI達成に有効であったとは言えない(11人) その他(2人)	●今後も丁寧に考えながら作成していく必要があると思ふ。 ●事業実施にいたっておらず、評価できない。	
③ 郷土の人の身体と心を守る 福祉・保健・医療分野	③-1 結婚支援対策の推進	「街コン」開催への支援		「街コン」の出会いによる結婚件数 【野辺地町調べ(町商工会との連携)】	年間2件	0件	進捗していない	町単独の実績がないため。	事業内容の見直し(改善)	結婚支援は今後ますます必要性が高まると考えられるが、街コン開催での支援は参加者が集まらないことなどから難しい。	KPI達成に有効であった(0人) KPI達成に有効であったとは言えない(12人) その他(1人)	●事業の廃止も含めて抜本的な見直しが必要ではないでしょうか。 ●何か一緒にやるのであれば、お互いを知るチャンスがあると思ふ。例えば、農作業、スポーツ・レクリエーション、ボランティア、演劇等。 ●魅力あるイベントが開催できると良いが、参加者が集まらないのではコロナ禍でもあり事業展開は難しい。 ●街コンという事業では、集客が難しくなっていて、新しい型でのアイデアが必要と思われる。	
		乳幼児医療費の無償化(未就学の所得制限の見直し)	12,527千円	就学前児童のいる世帯 【野辺地町調べ】	350世帯	311世帯(355人)	進捗している	所得撤廃したことにより、全未就学前児童に対しての医療費助成は子育て支援の一環として担っている。	事業の継続	子育て支援対策からも継続していく。必要性が高く、現物給付化しており効率的でもある。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(1人)	※委員からのコメント特になし	
	③-2 子育て支援体制の強化	保育所利用料の特例の拡充(同時入所の児童がいる場合の第2子無料化)	37,037千円	入所児童数 【野辺地町調べ】	年間370人	318人	一定の進捗がある	令和元年度町内保育所定員325人。定員外入所を含め、令和元年度3月1日現在の入所者数318人。前年度に引き続き、令和元年度においても、入所者数は、4月(292人)よりは増加傾向にあり、ある程度の効果が現出しているものと思	事業の継続	子育て家庭の経済的負担の軽減を図り、安心して子供を生み育てる環境を整えるため、継続する。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(1人)	●目標値設定が高いように思ふため、見直しをした方がよいと思ふ。	
		地域子ども・子育て支援事業の充実	23,643千円	利用者数 【野辺地町調べ】	<放課後児童クラブ> 登録児童:年間120人 <地域子育て支援拠点> 延べ人数:年間2,000人 <延長保育> 延べ人数:年間7,500人	<放課後児童クラブ> 登録児童:年間104人 <地域子育て支援拠点> 延べ人数:年間621人 <延長保育> 延べ人数:年間8,696人	一定の進捗がある	放課後登録児童数の増加により、社会資本整備対策の必要性が現出。支援拠点一保護者の共働きの事業の利用者は減少したが、今後も継続して子育て中の親子の交流や育児相談等の場の提供をする。延長保育一目標値は達成したが、今後の事業拡大について検討・実施する。	事業の継続	保護者の就労形態の多様化に伴い、今後も保育ニーズの高まりが想定されるため、事業を継続して実施する。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(1人)	※委員からのコメント特になし	

評価対象外事業※実施の目途がたっていないため

評価対象外事業※実施の目途がたっていないため

基本目標名	施策名	具体的な施策	R元年度 決算額	重要業績評価指標(KPI)			担当課における内部評価				外部有識者からの評価		
				指標	目標値(H32年)	実績値(R元年)	効果検証	理由	今後の方針	理由	事業の評価	コメント等	
③ 「郷土の人の身体と心を守る」 「福祉・保健・医療分野」	③-3福祉・医療の充実	地域医療体制の充実促進		小児急病、夜間受け入れ体制等の勉強会の開催(北上北広域事務組合等との連携) 【野辺地町調べ】	勉強会の開催		評価対象外事業※広域事業のため						
		中核病院、産科、小児科など受診者の通院交通費助成	1,834千円	妊婦健康診査等交通費助成の利用者 【野辺地町調べ】	年間85人 ※通院支援制度の拡充	61人	進捗している	妊産婦の負担軽減のために、多胎妊婦への妊婦健診を最大7回まで追加し、内容をより充実させた。未申請者には健診等の場でも申請を勧奨し、ほぼ同じ100%の妊産婦が申請、事業を活用した。	事業の継続	今後も妊産婦の身体的・精神的・経済的負担軽減を目指し、事業は継続していくが、今後、さらなる見直しも必要となる。また、R2年度からの子育て世代支援事業と連動し、切れ目ない支援を目指す。	KPI達成に有効であった(11人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(1人)	※委員からのコメント特になし	
		妊婦への支援	5,623千円	件数等 【野辺地町調べ】	<マタニティサロン> 利用者:年間80人 <妊婦健康診査公費助成> 利用者:年間76人 <救急システム> 情報提供者:年間100人 <妊産婦、新生児訪問> 100%継続	<マタニティサロン> 利用者:年間14人 <妊婦健康診査公費助成> 利用者:年間76人 <救急システム> 情報提供者:年間41人 <妊産婦、新生児訪問> 妊婦45.8% 新生児乳児94%		一定の進捗がある	マタニティサロンについては、日曜日開催を実施し内容を充実。妊婦の救急時情報提供システムでは母子健康手帳交付時に周知しているだけでなく転入妊婦等にも周知を徹底し、登録に結び付いている。妊婦訪問は対象を拡大・支援プランの作成等内容も拡充した。	更に発展させる	令和2年度からはマタニティサロンをすくすくサロンに事業名を変更し、ティンサロン形式とする。また、対象を拡大・日曜日開催日を増やす・平日開催日に「ベビーマッサージやクッキングなどの新しい内容を実施して参加者の増加・目標値の達成を目指す。また、妊婦訪問では支援プランの見直しを行い内容の充実を目指す。令和2年度途中からは子育て世代包括支援事業として、ヘルパーや助産師による産後の家事援助等の生活支援開始を検討中。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(1人)	※委員からのコメント特になし
		成人保健事業の充実(死亡原因一位のがん対策等)	20,897千円	就労世代の健(検)診受診率 【野辺地町調べ】	年間45%	10.9%~29.9%	あまり進捗していない	受けやすい健診体制づくりを進めているが、受診者数はほぼ横ばいである。また、全体的な受診率は目標値に届いていない。目標値達成に向けて今後更なる改善が必要になると考える。	更に発展させる	今後も検診再動員を効果的に実施する予定。 令和元年度は、大腸がん検診、乳がん検診の再動員を実施。 今後は就業者優先日を設けるなど、新規の受診者獲得を狙う。	KPI達成に有効であった(4人) KPI達成に有効であったとは言えない(8人) その他(1人)	●周知・PRが必要だけれども、まず自分を大切にしたいが一人一人に求められると思うので、周りがさらに声かけを続けるべきである。 ●特に就労世代については、各職場にて実施する検診や各職場が負担して人間ドックなどを受診する者も多いと思われる。 ●仕事を休みづらい等の理由もあると思われるので、企業側への促しも必要。補助金もあり。	
④ 「郷土をまします愛し育む「人財」を育てる」 「教育・歴史・文化分野」	④-1確かな学力・豊かな心・健やかな体の3つの調和のとれた「野辺地っ子」の育成	高校生に対する学力向上の支援	1,241千円	国公立4年制大学への合格者数 【野辺地町教育委員会調べ(県立野辺地高等学校、八戸学院野辺地西高等学校との連携)】	年間 町内にある二つの高校の合計10人	4人	一定の進捗がある	これまでに予備校短期講習に参加したことのある令和元年度卒業生7人のうち、3人が国公立大学に進学している。	事業内容の見直し(改善)	令和2年度は、多くの生徒が参加できるよう、塾講師を当町に招聘した短期講座を開催する。	KPI達成に有効であった(11人) KPI達成に有効であったとは言えない(2人) その他(0人)	●勉強の仕方が分かんと思うので、講師を招いて実施を希望する。 ●未実施につき。 ●野辺地高校存続のためにも続けてほしい。 ●学力向上支援のみではなく、農業・漁業体験による就労者増加対策も加えたらどうか。リモートでの有名講師招聘。	
		異文化交流の推進	10,636千円	事業実施の始まりと終わりに英語力テストを実施 【野辺地町教育委員会調べ】	参加者平均点:最初のテストから最後のテスト10%増	未実施		進捗していない	R元年度はALTがやむを得ない理由で急遽配置換えとなった上、新型コロナウイルス感染症の影響もあり年明けからの参加者が著しく減少したため、比較検証を実施することができなかった。	予定通り事業終了	外国語教育をより充実させるため、小中学校でのALTの活動時間を増やす。	KPI達成に有効であった(2人) KPI達成に有効であったとは言えない(7人) その他(4人)	●英語で野辺地町を紹介するイベント・企画があったら、外国人を三沢等から呼んで交流できると思う。 ●ネイティブ英語と触れ合う機会を小中学校からもっと増やしてほしい。 ●図書館の利用だけでは世帯率の把握が難しいと考えます。実績値の把握ができないもの、効果検証も難しい。 ●リモートによる外部委託も検討した方がよいと思う。
		家族ふれあい読書デーの継続	-	家読実施世帯率(小学校) 【野辺地町教育委員会調べ】	55%	-		あまり進捗していない	令和元年度は家読実施世帯率調査を実施していないが、乳幼児、児童の図書館利用人数や貸出冊数、図書館行事への参加者の数値は微増の状況であり、大きな変化はみられなかった。	事業の継続	事業を継続しつつ、小学生にとって最も身近な本と触れ合う場所である学校図書館の環境を整えるほか、町立図書館に家族で足を運んでもらえるよう広報活動を積極的に進行。	KPI達成に有効であった(3人) KPI達成に有効であったとは言えない(8人) その他(2人)	●図書館の一定の整備は必要だが、出版数減、書店数減の現状と方針が合わない。休校・統合する学校からの贈与という手もあるのではないかな。
	④-2心身ともに健康な人づくりの推進	競技スポーツの強化	1,220千円	対象者 【野辺地町教育委員会調べ】	年間受賞者 全国大会入賞<個人>2人 全国大会入賞<団体>2団体 東北大会3位以内<個人>10人 東北大会3位以内<団体>10団体	全国-個人1人、1団体。東北3位以内-個人0人、1団体。		一定の進捗がある	支援事業の実績値として、全国大会や東北大会での入賞者数は前年度に比べ多少であるが増加した。事業を実施することで、大会に向けての意識や競技力の向上・コンディショニングすることができるため、モチベーションやパフォーマンスを上げるには有効的な事業と考える。	更に発展させる	これまで事業の周知、実施を図った結果、ある程度の事業の浸透性が図られてきているものと考えられる。これからは各種競技団体や学校の選手育成と競技力の向上を期待し、目標値を超える成績を期待しながら継続していきたい。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(0人)	●全国大会や東北大会などの大規模な大会も重要ではあるが、その全国大会や東北大会に出場するために、地区大会のような小規模大会から強化体制構築が必要ではないか。(底辺からの競技力向上)
	スポーツを通じた健康づくりの推進	438千円	健康数値が良くなった参加者の割合 【野辺地町教育委員会調べ】	90%	・ウォーターマラソンスタンプラリー健康数値がよくなった割合「アンケート未実施」 ・水泳教室の利用者数:128人		一定の進捗がある	健康ウォーターマラソンスタンプラリー → 実施期間が3月10日までであり、その後閉講式を開催し「健康アンケート」を実施する予定でありましたが新型コロナウイルス感染症の関係で実施できなかった。参加人数でみると1割程度の増加がみられた。 水泳教室の利用者数 → 実施方法を見直し、幼児の部での定員割れは若干の改善傾向にあるようである。(前期8回、後期4回 → 前期6回、後期6回)	事業の継続	健康ウォーターマラソンスタンプラリー → 事業を継続し、健康増進に努める。「健康アンケート」の実施。目的が体力の向上や仲間づくりの目的が多く、健康づくりを意識させた取り組みが必要となる。 水泳教室の利用者数 → 水泳教室の内容の充実。なお、委託している指導者に制限があるため、募集定員及び開催回数の限度がある。子どもの健康増進を図りながら、要望等にも適切に答えて開催していく。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(1人)	※委員からのコメント特になし	
	スポーツを通じた健康づくりの推進	2,711千円	利用者数 【野辺地町調べ】	300人	591人		進捗している	平成29年度から事業拡大した結果、目標値を超えた利用者数となったため。	事業の継続	参加率が低迷しているコースもあるため、事業PRや内容の工夫を加えながら、今後も本事業は継続すべきである。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(1人)	※委員からのコメント特になし	